

～ 一般生活者の肺がんについての意識・実態調査 ～

女性の肺がん**喫煙率 8.5%でも肺がんでの死亡数は多く第2位****喫煙以外の原因も考えられるが、生活者の85%は肺がんの原因として
「喫煙」(含受動喫煙)を意識****女性の肺がん検診受診率はわずか 25.6%**

ブリistol・マイヤーズスクイブ株式会社は、全国の20～69歳の男女1,000人を対象に、肺がんについての考え方や意識を把握することを目的に、インターネット調査（調査期間2017年2月22日～27日）を実施いたしました。2014年の女性の喫煙率は8.5%（厚生労働省 最新たばこ情報）であり大半は喫煙していないにもかかわらず、肺がんが死亡する人が2番目に多いという事実や、喫煙以外にも肺がんのリスク要因があることについて正しく認識されていない可能性があることが、意識調査で明らかになりました。

2015年の人口動態統計(確定数)によると、日本人の死亡原因の1位は「がん(悪性新生物)」でした。2位が「心疾患」、3位が「肺炎」、4位が「脳血管疾患」、5位が「老衰」となっています。男女別に見ても1位「がん(悪性新生物)」、2位「心疾患(心臓)」でした。この順位は、前年と変わっていません。なかでも、肺がんによる死亡数は、男性が53,208人でがんの中で最も多く、女性も21,170人で大腸がんに次いで第2位と、日本で死亡数が多いがんといえます。

一方で今回の調査結果から、肺がんは、男性でかかる人が多いがんというイメージがあるものの、女性のがんの死亡原因として2番目に多いという事実は、あまり知られていないことが示唆されました。

肺がんは、気管、気管支および肺胞の細胞が悪性化した腫瘍であり、その組織型によって肺がんの80～85%を占める非小細胞肺がん（腺がん・扁平上皮がん・大細胞がん）と、15～20%を占める小細胞肺がんに分類されます。

国立がんセンターの研究「たばこと肺がんの関係について」および「受動喫煙とたばこを吸わない女性の肺がんとの関連について」によると、喫煙および受動喫煙が原因の女性肺がん患者の割合は40%強と推計されています。調査では、喫煙と肺がんの関係については強く認識されていることが明らかになりました。

さらに、今回の調査で肺がんの検診受診率が他のがんと比べて低いことが明らかになりました。特に女性においては、喫煙および受動喫煙とは別の原因で肺がんになる人が50%以上存在すると推定されることから、喫煙者はもちろん非喫煙者であっても検診の受診が重要といえます。

【調査概要】

対象：20～69歳の男女

地域：全国

方法：インターネットによるアンケート調査

時期：2017年2月22日～27日

有効サンプル：1,000名

【結果の詳細】

■ 肺がんと喫煙：女性の肺がん原因 喫煙「そう思う」が85%

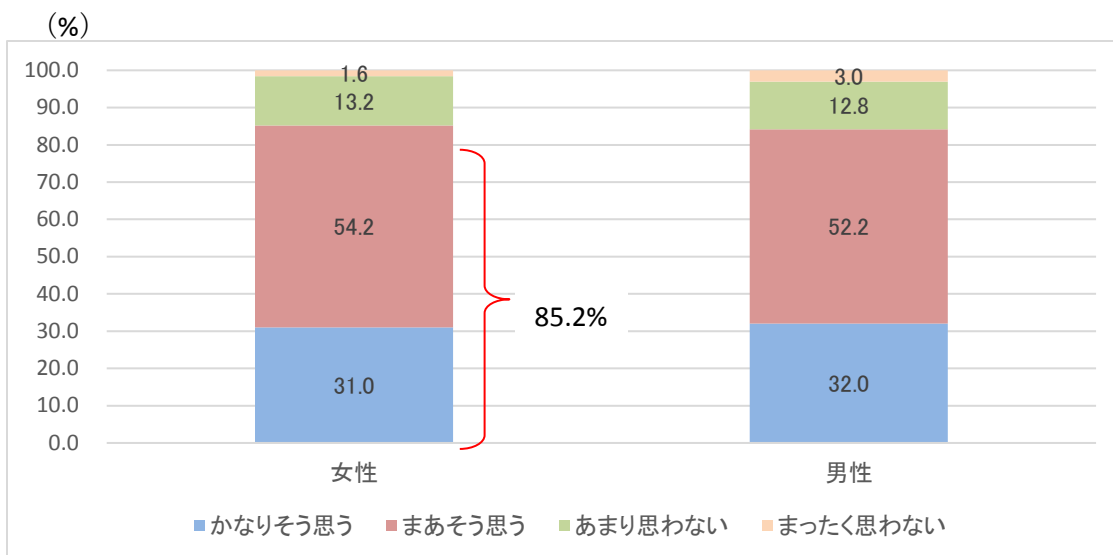
肺がんになる一番の原因について、「喫煙（受動喫煙を含む）だと思いか」聞いたところ、女性はかなりそう思う（31%）、まあそう思う（54.2%）と、喫煙が肺がんの一番の原因との認識があわせて85%を超えました。喫煙が肺がんの原因のひとつであることが強く認識されていることがうかがわれる結果ですが、国立がんセンターの研究「たばこと肺がんの関係について」

(<http://epi.ncc.go.jp/jphc/outcome/254.html>)によると、女性の場合は、たばこ（受動喫煙を含まない）が原因とされる肺がん患者の割合は18%、また、「受動喫煙とたばこを吸わない女性の肺がんとの関連について」(<http://epi.ncc.go.jp/jphc/outcome/309.html>)によると、たばこを吸わない女性の肺腺がん（たばこを吸わない女性の肺がんの約8割を占める）では、37%が受動喫煙によるものと推計されています。従って、たばこ以外の要因で肺がんになる場合があることも示唆されています。一方、男性の場合は、たばこが原因とされる肺がん患者の割合は68%とされています。

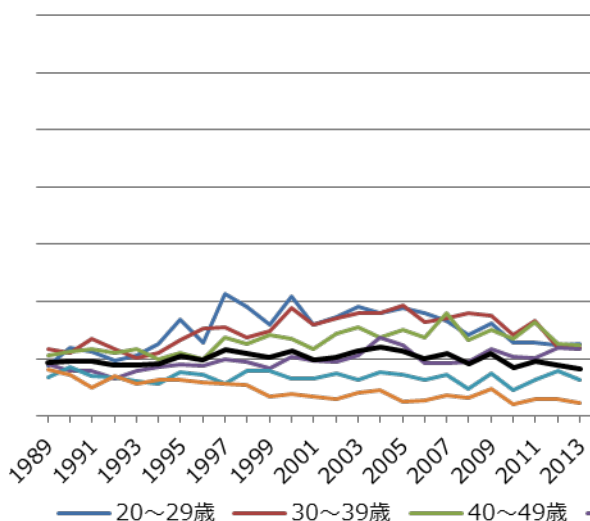
男性も女性同様意識調査では、かなりそう思う（32%）、まあそう思う（52.2%）と、喫煙が肺がんの一番の原因との認識があわせて85%を超えました。

喫煙率に関する厚生労働省の調査によると、2014年の喫煙率は日本人男性の場合32.2%、女性は8.5%でした。

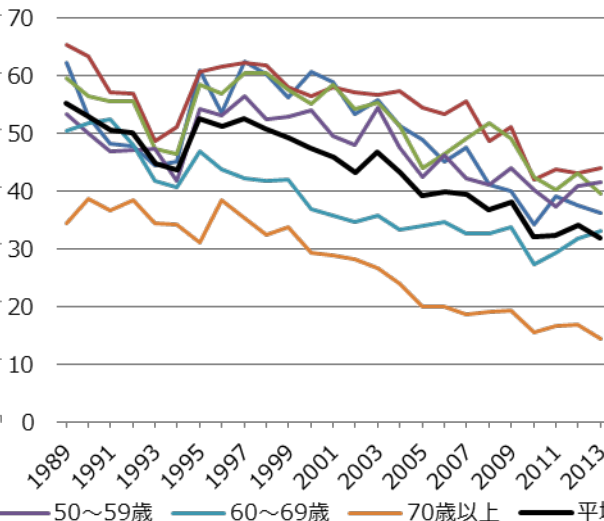
Q: あなたは肺がんになる一番の原因は、喫煙(受動喫煙を含む)だと思いますか。男女(N=1000)



女性の成人喫煙率の推移



男性の成人喫煙率の推移



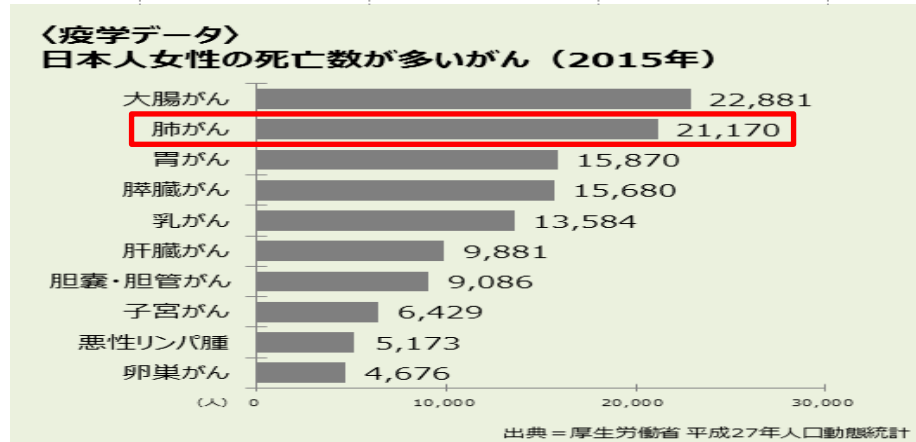
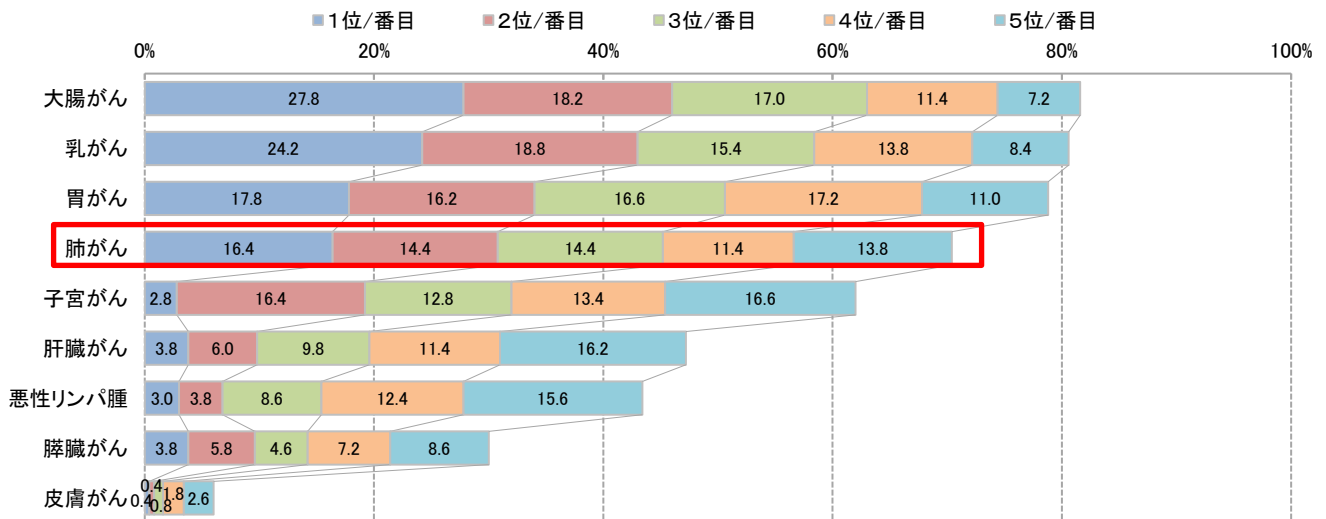
■ **がんによる死亡数：女性のがん死亡数第2位の「肺がん」、意識調査では第4位**

日本人女性で死亡数が多いと思うがん種について1位から5位まで聞いたところ、死亡数の1位として挙げた人が最も多かったのは大腸がんの27.8%。以下、乳がん(24.2%)、胃がん(17.8%)と続き、肺がんは16.4%で第4位でした。また、第1位から第5位までの集計でも、大腸がんは最も多く、乳がん、胃がん、肺がんと続いています。

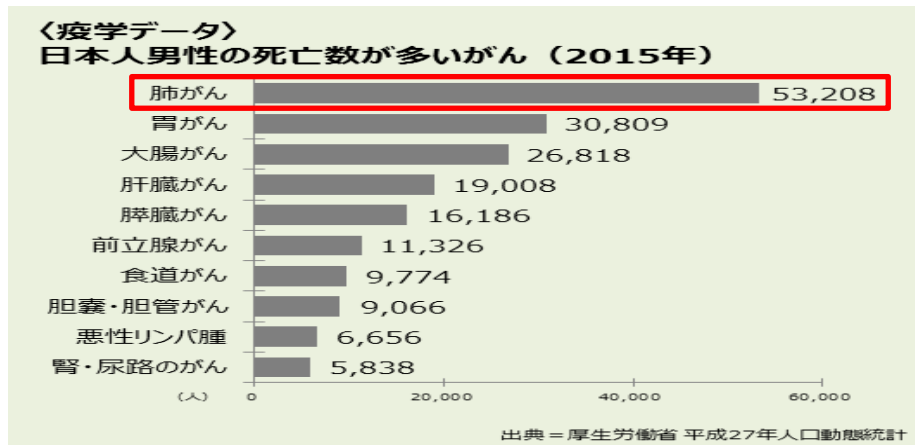
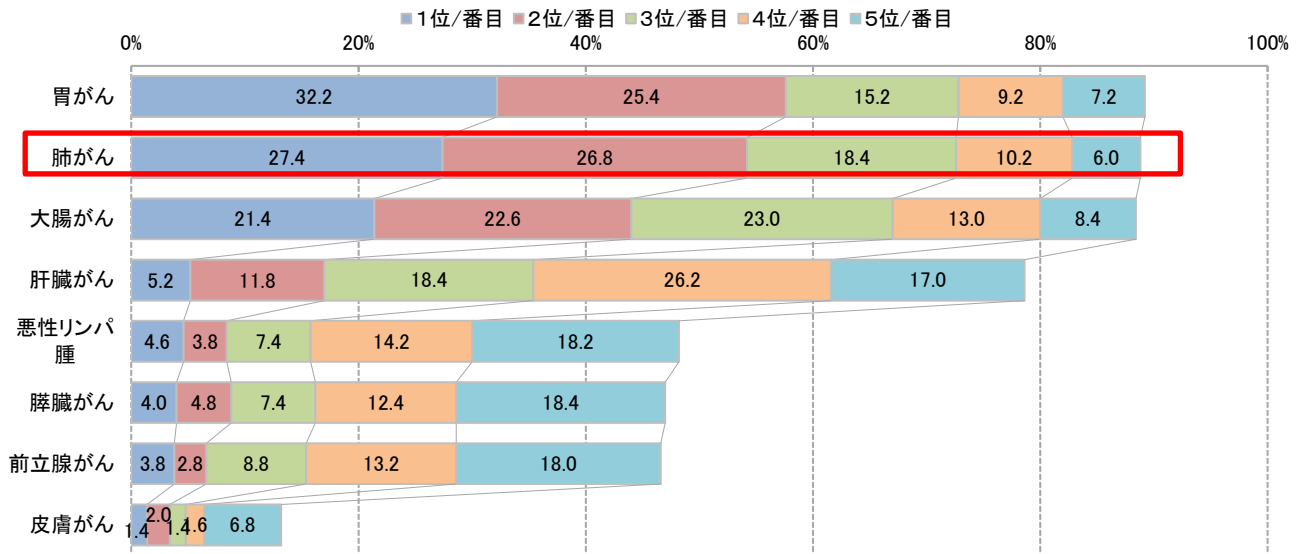
一方、厚生労働省が発表している人口動態統計(2015年)によると肺がんによる女性の死亡数は、21,170人で第2位であり、意識調査との結果にギャップが見られました。

男性においては、意識調査の結果、1位として挙げた人が多かったのは、胃がん(32.2%)、肺がん(27.4%)、大腸がん(21.4%)の順で、総数でも同様となっていました。これに対して、人口動態統計(2015年)では、第1位肺がん、第2位胃がん、第3位大腸がんでした。

Q: あなたは、次に挙げるがんの中で年間の死亡者数が多いのはどのがんだと思いますか 女性(N=500)



Q: あなたは、次に挙げるがんの中で年間の死亡者数が多いのはどのがんだと思いますか 男性(N=500)



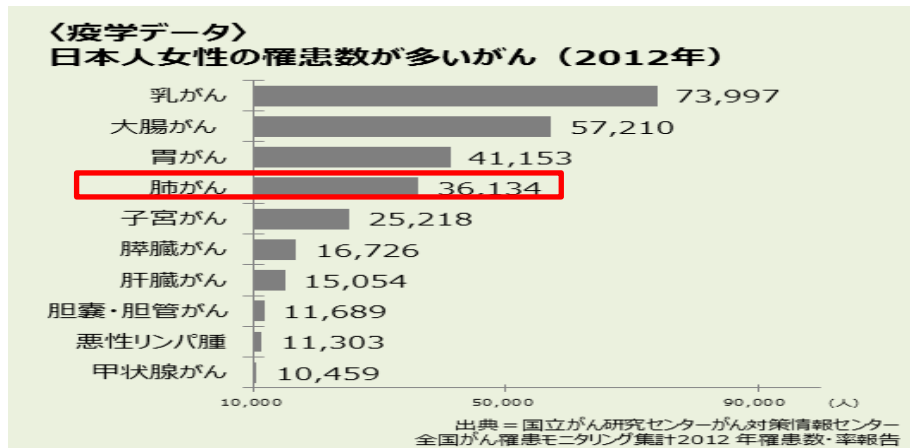
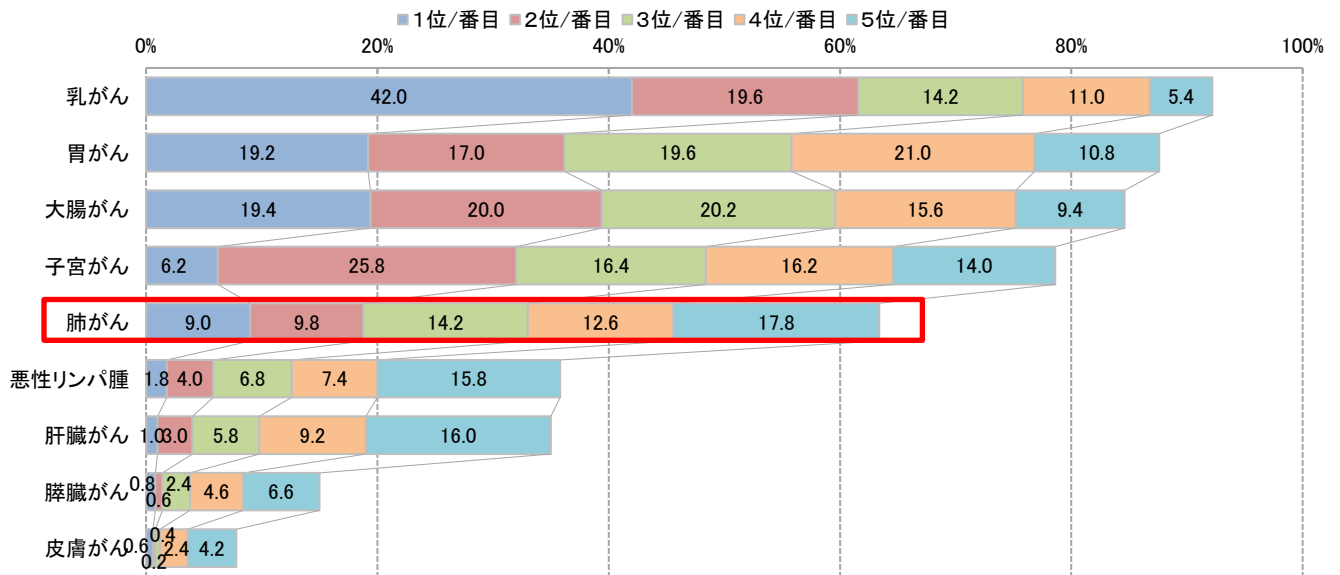
■ 罹患数：女性のがん患者数について、意識調査では「肺がん」第5位、実際は第4位

日本人女性で患者数が多いと思うがん種について死亡数と同様の調査を行ったところ、1番患者数が多いと回答した人が多かったのは、乳がん（42.0%）で、以下大腸がん（19.4%）、胃がん（19.2%）と続き、肺がんは9.0%で第4位でした。

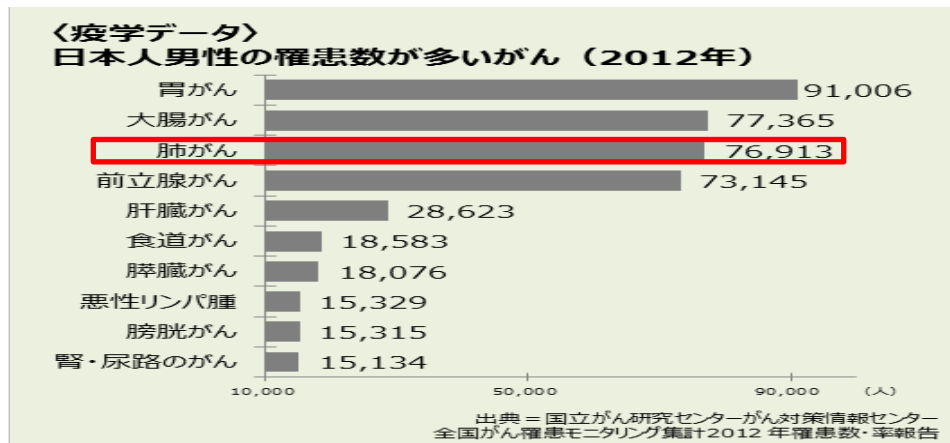
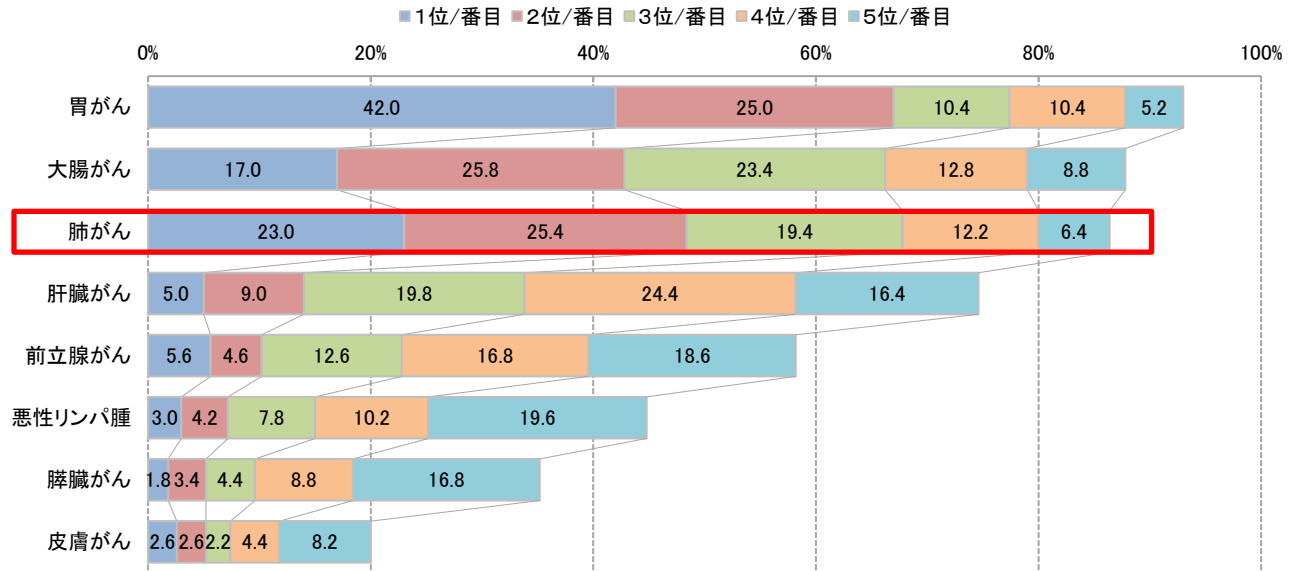
また、第1位から第5位までの集計では、乳がん、胃がん、大腸がん、子宮がん、肺がんの順となりました。これに対して、国立がん研究センターが発表している2012年の罹患数によると、女性のがん種ごとの罹患数は第1位が乳がんで73,997人、第2位は大腸がん57,210人、第3位胃がん41,153人、第4位肺がん36,134人で、実際より若干低く認識されていました。

男性については、第1位から第5位までの集計では、肺がんは胃がん、大腸がんに次ぐ第3位で、実際の罹患数の第3位（76,913人）と一致していました。

Q: あなたは、次に挙げるがんの中で患者数が多いのはどのがんだと思いますか。女性(N=500)



Q: あなたは、次に挙げるがんの中で患者数が多いのはどのがんだと思いますか。 男性(N=500)

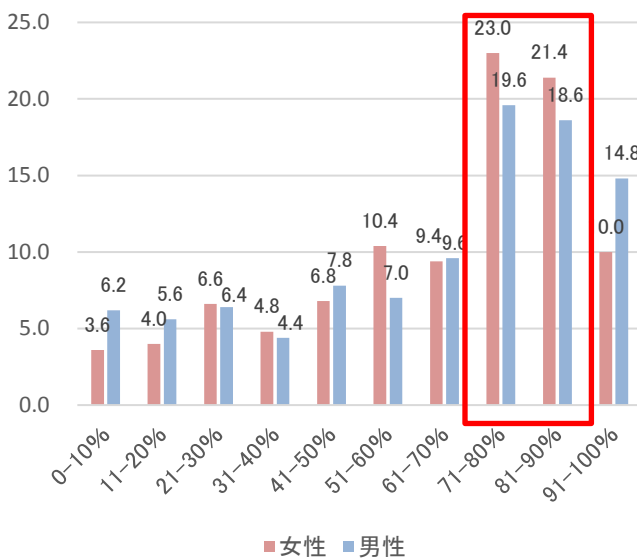


■ 肺がんの5年生存率：ステージ1,4ともに正しい認知は低い

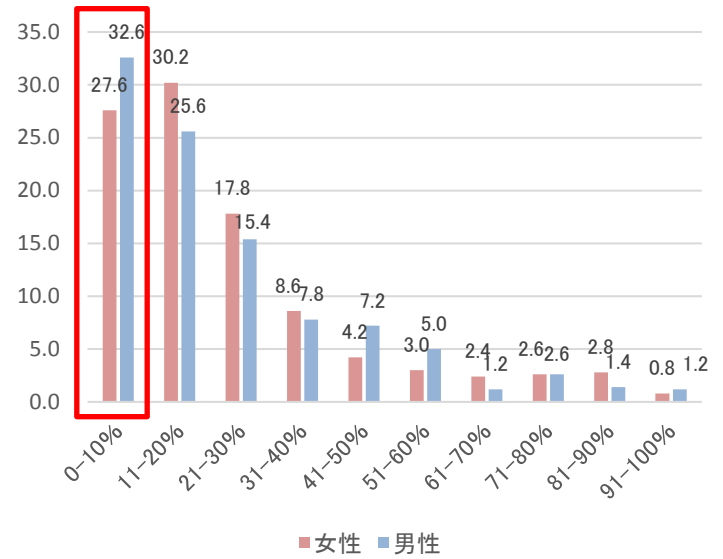
肺がん患者の5年相対生存率について聞いたところ、ステージ1については、70～80%が女性23%、男性19.6%で最も多く、ステージ4については、0～10%が男性で32.6%で最も多く、女性では27.6%で2番目に多い結果となりました。国立がんセンターによると、肺がん患者の5年相対生存率は、ステージ1で男性71.4%、女性88.1%だったのが、ステージ4まで進んでから発見された場合は男性2.9%、女性6.3%にまで下がります。5年生存率に関して正しく認識している人は20～30%程度と、高くないことが示唆されました。

Q: あなたは肺がんステージ1(進行していない初期の状態)、ステージ4(他臓器へ転移するなど進行した状態)の5年生存率はどのくらいだと思いますか。男女(N=1000)

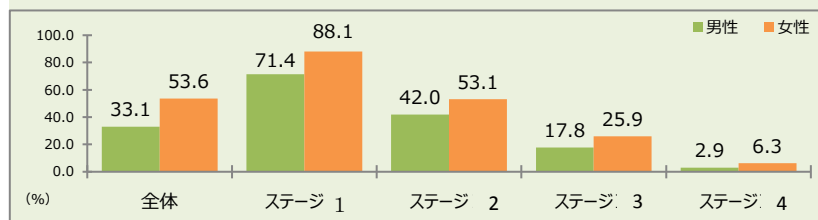
ステージ1



ステージ4



〈疫学データ〉肺がん患者の5年相対生存率



国立がん対策情報センターがん統計研究部院内がん登録室「がん診療連携拠点病院院内がん登録2007年生存率集計報告書」(平成27年9月)より作成

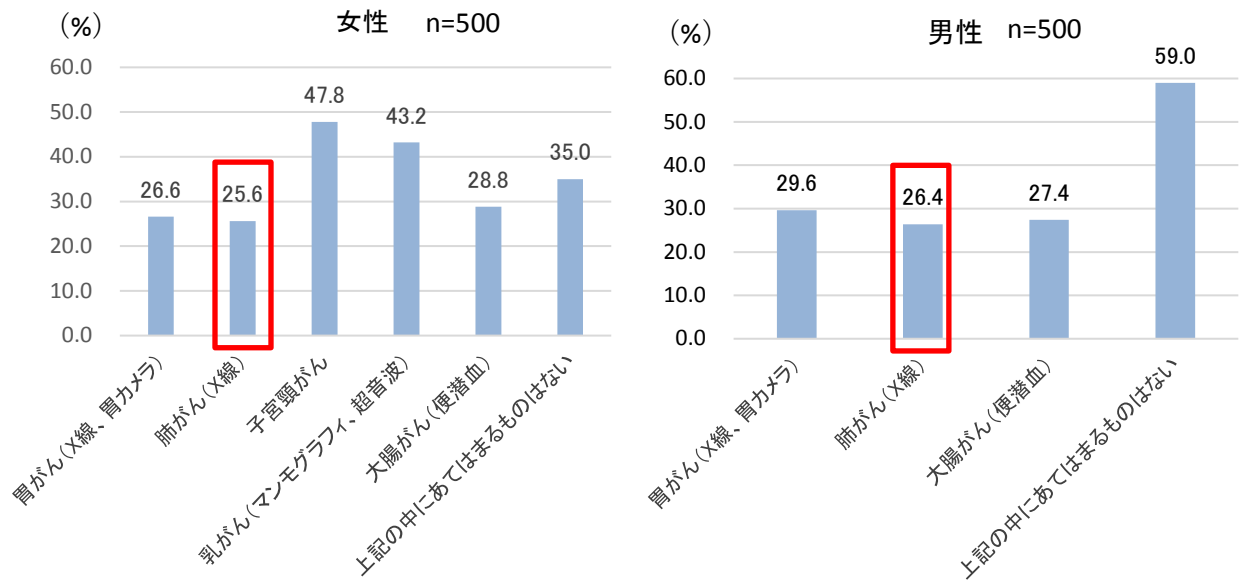
■ 検診受診率：女性の「肺がん」の検診受診率は25.6%と「子宮がん」「乳がん」などと比べ低い

意識調査で、過去2年間におけるがん検診の受診経験についてたずねたところ、女性の受診率は第1位が子宮頸がん47.8%。第2位は乳がんの43.2%、第3位は大腸がん28.8%、第4位は胃がんの26.6%。肺がんは25.6%で第5位でした。これらのがん検診を受けていない人は35.0%で、65.0%の人が何らかのがん検診を受診していましたが、その中で肺がんは最も低い結果となりました。

一方、男性では、胃がんが29.6%、大腸がんが27.4%、肺がんは26.4%で最も低く、これらのがん検診を受けていないのは59.0%でした。

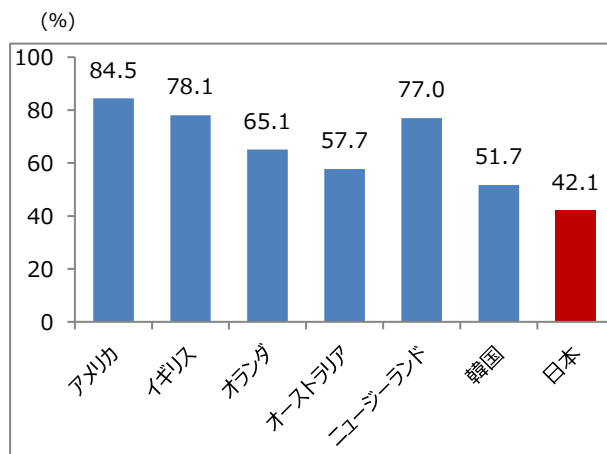
女性の検診受診率は、諸外国と比較しても低い値となっており、OECD（経済開発協力機構）加盟国で2015年のデータがある30カ国の中で最低レベルに位置しています。

Q: あなたが過去2年間の間に受けたことがあるがん検診をすべて教えてください。男女(N=1000)

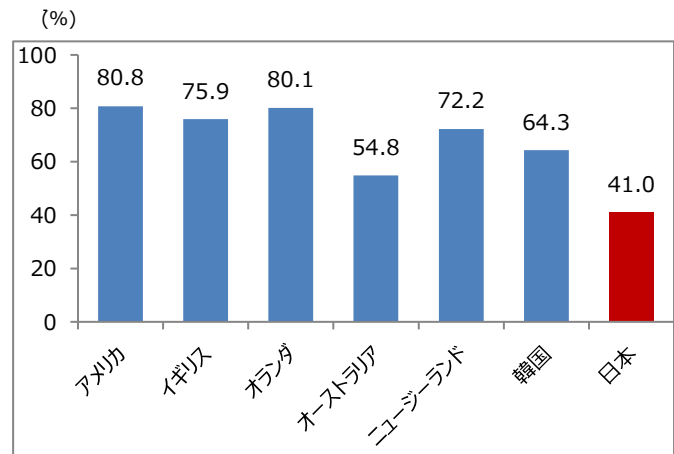


【参考】

20-69 歳女性の子宮頸がん検診受診率



50-69 歳女性のマンモグラフィー検診受診率



※2013年のがん検診受診率

4) OECD, OECD Health Statistics 2016.より作成

※2013年のがん検診受診率

4) OECD, OECD Health Statistics 2016.より作成